

霞が関で続く反原発の闘い

木村雅英

●大飯再稼働と原子力安全委員会と原子力安全・保安院

大飯原発は、原子力安全・保安院のストレステスト意見聴取会、原子力安全委員会の確認強行を経て、四閣僚が政治決定し、七月一日に再稼働された。私たちは傍聴・委員への働きかけ・首相官邸前抗議行動・現地大飯原発での阻止行動などをして、野田政権による安全性を無視した再稼働強行をあぶり出した。敷地内に破砕帯があり、若狭湾一体の活断層の連動が懸念され、この夏は大飯再稼働が無くても電気が足りていた。大飯原発三、四号機を止める闘いを継続し、伊方ほか次の再稼働を許してはならない。なお、原子力安全委員会も保安院も規制委員会の発足後消滅する。

●原子力規制委員会人事問題

今、野田政権が「原子力ムラ」から選んだ原子力規制委員人事を提案し、私たちも必死でこの人事の白紙撤回を訴えている。規制委員長に推されている田中俊一氏は四〇年間「原子力ムラ」で働いてきたばかりか、損害賠償審査会で自主避難に対する賠償に反対し、除染を推進して福島県民を高濃度汚染地域に留めた。また、〇七年から〇九年まで三年間原子力委員会の委員長代理を務めた。推進と規制を分離するという法律の主旨にも、民主自民公明で画策して作った設置法の適格条項（第7条）にも違反する弁護士も驚くほどの人事案である。

国会同意を止めるために、e・シフト他による国会議員に対するアンケートやロビーイング、市民側からの人事案提案、記者会見などとともに、毎週金曜日の環境省ヒューマンチェーン、内閣府（原子力行政担当大臣）への抗議行動を必死で続けている。政局混沌の中で国会同意を止められても、「原子力ムラ」人事案を閣議決定した野田政権が国会同意無しで国会閉会中に任命するかも知れない。

●原子力委員会

規制委員長候補が委員長代理を務めた原子力委員会は規制委員会が発足し

ても存続する。原子力基本法に定められ日本の原子力行政の最高審議機関である原子力委員会は、アイゼンハワーズの「アトムズ・フォー・ピース」宣言（一九五三年二月）の二年後、一九五六年一月に正力松太郎委員長で発足、長らく原子力の「安全神話」を形成し「平和利用」を推進しかつIAEAなどと国際協力をしながら核燃料サイクル技術の研究開発等を推進してきた。3・11以後も何ら総括せず現在まで存続している。私は、本年四月頃から毎週傍聴して、時には不規則発言をして委員会を牽制している。

●小委員会を曲げた「秘密会議」

六月には原子力委員会問題が注目された。事務局に電力事業者から出向社員を受け入れてきており、「原子力発電・核燃料サイクル技術等検討小委員会」では、電力会社など原発推進側だけで「勉強会」と称する「秘密会議」を開き、一八人の弁護士に告発された。その後、内閣府内の検証チームが調査し、「電力関係者に不利なシナリオを削除するなど小委員会の議論を誘導した。結論が影響を受けた可能性も否定できない」と指摘し「中立性、公正性、透明性の観点から不適切」と結論づけ、細野豪志・原発行政担当相に報告した。さらに、経産省資源エネルギー庁が、「無い」と応答していた議事メモを検証報告発表後に提出、八月二四日には公表された。が、二〇回以上開催した秘密会議の数回分のみである。大臣が委員長と委員長代理を厳重注意して一件落着のつもりらしい。

なお、「エネルギー・環境に関する選択肢」パブコメの「三つの選択シナリオ」（即時原子炉廃炉が無い）は、この小委員会の議論を受けて原子力委員会が決定した。検証チームの報告は、膨大な資料だが「原子力ムラ」の様子が現れて興味深い。 <http://www.cao.go.jp/others/sounu/kensyu/kensyu.html>

原子力行政のおおもとを変えるために、原子力委員会に過去の施策を総括させ、解体したい。

（きむら・まさひで／再稼働反対！全国アクション）